

「声」取り入れて 役員が農家訪問

三重・JA伊勢

三重県のJA伊勢は自己改革の実践に向け、組合員の声をJA経営に反映するため、徹底した対話に取り組んでいる。

その一環として、常勤役員が担い手農家らを訪問し、農業経営や地域農業について直接意見を交わす農家訪問を行っている。JAに対する意見・要望などを聞き取り、今後の事業に反映させるこ

とで、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」につなげる。

6月から7月にかけて、同JAの坂口正明営農担当常務と職員が、管内の担い手農家や生産部会長ら21戸を訪問。7月上旬には、坂口常務と営農部の中野嘉和副部長らが同JAいちご部会の西村彰部会長を訪れ、生産部会の方向性や要望などを聞き取った。

西村部会長は「近年、イチゴ栽培に挑戦する若手が増えており、農家個

人でも研修などを受け入れている。産地の活性化につなげるためにも、JA

Aでの営農指導や支援体制も整えてほしい」と話す。

坂口常務は「農家の声を直接聞き取ること、事業運営に反映していきたい。また、営農体制を本年度から変更したが、今後も農家と職員との関係を密にし、指導・販売の強化に取り組んでいきたい」と話す。

(三重・伊勢)

西村部会長④から意見・要望などを聞き取る坂口常務⑤と中野副部長

